

なぜ、天気も良くて、海上の視界が良好な状況でも事故が起きるのでしょうか？

田園地帯が広がり、平坦な道路が交差するような場所では、周辺に建物もなく見通しも良いので、交通事故など発生しないように思われますが、出会い頭の事故が思いのほか多く発生していると言われています。

船舶における「田園型事故」には、主に次のとおり二つの原因があると考えられています。

「田園型事故」の主な原因

- ▶ コリジョンコース現象
- ▶ 船体による死角



◆コリジョンコース現象

コリジョンとは「衝突」という意味です。

接近する船舶同士の場合、両船の相対方位が常に変わらず近づくならば、「両船がそのまま進めば衝突する進路（コリジョンコース）上にある」ということになります。（下図参照）

このような事故の当事者は、お互いの存在を見ているつもりでも見えていないことがあります。これをコリジョンコース現象といいます。

実は、これには、人間の視覚能力（見ること）の特性が深く関わっているのです。

人間の目は、移動する物体は見つけやすいのですが、停止しているものは見つけにくいと言われています。相手船がコリジョンコース上にあるときは正に船影が停止している（ように見える）ので、発見が遅れがちになることに留意する必要があります。

また、錨泊中や漂流中などの動きの少ない船舶も見つけにくくなるので、適切な見張りが必要です。

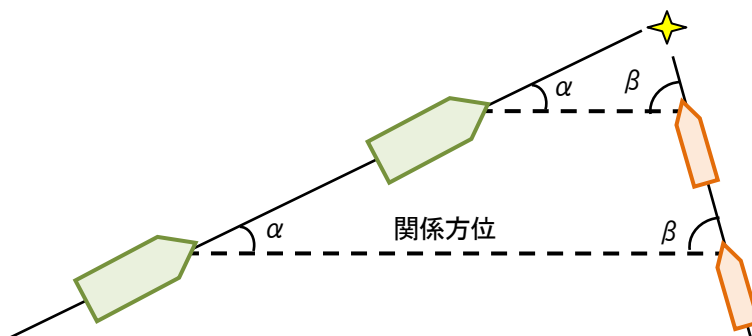


図 コリジョンコースの見極め

◆船体による死角

10ノット以上で航走すれば、船首浮上により、10～30°程度の死角が生じるほか、船首部に備わる漁具や煙突、クレーンなどにより、相手船が死角の中に入り込んでしまうことがあります。

通常は、自船が移動すれば、それに応じて死角も移動するので、余り気にすることはないのかもしれませんが。

しかし、田園型事故においては、この船首部の死角も原因の一つと考えられています。

上の図で考えれば、両船がそれぞれ同じ速力で航行する場合、相手船が船首部の死角の中に入り込んでしまうことがあるのです。

船首部を少し動かし、死角に入り込んでいる船を発見しましょう。